

第44回神奈川県病院学会 プログラム

メインテーマ

「新たな地域医療構想」と病院の将来
～2040年に向けた地域医療（・介護）のこれからを考える～

日 時：2025年10月15日(水)
13:00～18:00

会 場：ホテル・ザ・ノット ヨコハマ
横浜市西区南幸2-16-28
現 地 開 催(Web配信はありません)

主 催：公益社団法人神奈川県病院協会

学 会 長：神奈川県病院協会 会 長 吉 田 勝 明

学術委員長： " 副会長 長 堀 薫

協力団体：(公社)横浜市病院協会
(公社)川崎市病院協会
(公社)相模原市病院協会
三浦半島病院会
鎌倉市医師会病院会
湘南病院協会
湘南西部病院協会
厚木病院協会
大和・高座病院協会
小田原医師会病院会
足柄上病院会

神奈川県医療専門職連合会
(一社)神奈川県医療ソーシャルワーカー協会
(公社)神奈川県栄養士会医療事業部会
(公社)神奈川県看護協会
神奈川県公衆衛生協会
(一社)神奈川県作業療法士会
(一社)神奈川県精神保健福祉士協会
(公社)神奈川県病院薬剤師会
(公社)神奈川県放射線技師会
(公社)神奈川県理学療法士会
(一社)神奈川県臨床検査技師会
(公社)神奈川県臨床工学技士会
(公社)全国病院理学療法協会神奈川県支部

プログラム・目次

時 間	会 場	内 容	<掲載ページ>
13:00～ 13:10	2階 キング& クイーン	開会 ・総合司会 三角 隆彦 常任理事 ・開会の辞 長堀 薫 副会長 ・学会長挨拶 吉田 勝明 会長 ・来賓挨拶 足立原 崇 神奈川県健康医療局長 鈴木 紳一郎 神奈川県医師会長	
13:10～ 14:00		【特別講演】 ○「新たな地域医療構想と病院の将来」 九州大学名誉教授 尾形 裕也 氏	<1ページ>
14:00～ 15:20		【シンポジウム】 「新たな地域医療構想」と病院現場における現状と取組 1 シンポジスト発表 ・「「新たな地域構想」と臨床現場における現状と取組 急性期病院の立場から」 平塚共済病院院長 稲瀬 直彦 氏 ・「新たな地域医療構想と病院現場における現状と取組 組み—包括期、慢性期に関して—」 横浜新緑総合病院理事長兼院長 鶴巻温泉病院名誉院長 鈴木龍太 氏 ・「精神科医療と地域医療構想」 港北病院理事長兼院長 山口 哲顕 氏	<2ページ>
15:20～ 15:30	休憩		
15:30～ 17:30	2階 キング& クイーン	一般演題 口演発表(16 演題予定)	<6ページ>
	3階 ハート	一般演題 ポスター発表(15演題予定)	<8ページ>
17:30～ 17:40	休憩・一般演題表彰審査		
17:40～ 18:00	2階 キング& クイーン	閉会 ・学会長表彰 吉田 勝明 会長 ・閉会の辞 沼田 裕一 常任理事	

Ⅱ 特 別 講 演 (50分)

13:10～14:00 <会場 2階キング&クイーン>

「新たな地域医療構想と病院の将来」

九州大学名誉教授 尾 形 裕 也 (おがた ひろや)

プロフィール

[職 歴]

東京大学工学部、経済学部卒業後、1978年厚生省入省、年金局、OECD事務局（在パリ）、大臣官房、老人保健課、保険局国民健康保険課、在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部一等書記官、千葉市環境衛生局長、健康政策局看護職員確保対策官、国家公務員共済組合連合会病院部長等を経て、2001年より九州大学大学院医学研究院教授、2013年より東京大学特任教授、2013年より九州大学名誉教授



日本の医療政策においては、医療保障に関しては、皆保険体制の維持、推進のため、累次の医療保険制度改革の実施等、強い政府の関与があった。その一方で、医療提供に関しては基本的に自由放任政策がとられてきた。

これまでの拡大局面ではこうした方式がそれなりに機能してきたが、現在のような縮小局面においては種々の課題に直面している。

現在の地域医療構想はこうした伝統的な自由放任政策の一部転換を目指したものと位置付けることができる。

本講演では、現行の地域医療構想の現状と課題を整理するとともに、新たな地域医療構想の骨格案について説明し、それらの病院経営に及ぼす影響について検討する。

Ⅲ シンポジウム (1 時間 20 分)

14:00～15:20 <会場 2階キング&クイーン>

「新たな地域医療構想」と病院現場における現状と取組」

座 長 神奈川県病院協会 副会長

麻生総合病院 理事長兼病院長 菅 泰 博 (すが やすひろ)

プロフィール

【経歴】

2000 年	東京医科大学卒業
2000 年	東京医科大学助手外科学第 1 講座
2005 年	東京医科大学呼吸器外科助教
2006 年	医療法人鎗田病院外科医長
2008 年	神奈川県立がんセンター外科医員
2010 年	東京専売病院 (現・国際医療福祉大学三田病院) 呼吸器センター外科医員
2011 年	東京医科大学呼吸器外科・甲状腺外科客員教授
2011 年	医療法人社団総生会麻生総合病院呼吸器科員
2012 年	医療法人社団総生会麻生総合病院病院長
2014 年	医療法人社団総生会理事長



座長から一言

今後 85 歳以上の増加や、労働力不足がさらに進む中で、病院経営は非常に厳しい状況に置かれています。

本学会では「新たな地域医療構想と病院の将来」について、九州大学名誉教授の尾形裕也先生に特別講演を賜ります。

そして、シンポジウムでは、「新たな地域医療構想」と病院現場における現状と取組に関して、会員を代表して、急性期の病院について平塚共済病院院長の稲瀬直彦先生に、包括期・慢性期は鶴巻温泉病院名誉院長で横浜新緑総合病院院長の鈴木龍太先生、そして精神科は港北病院院長山口哲頭先生から発表していただき、特別講演講師の尾形裕也先生を交え、議論をしたいと思っています。

ぜひともご参加いただき、皆様に医療提供体制の現状と目指すべき方向性などについて考えていただければと願っています。

1 シンポジスト発表（各15分×3名）

（1）「新たな地域構想」と臨床現場における現状と取組

急性期病院の立場から

平塚共済病院院長 稲瀬 直彦（いなせ なおひこ）

プロフィール

【経歴】

1985年3月	東京医科歯科大学医学部卒業
1985年6月	東京医科歯科大学第二内科研修医
1987年6月	国立がんセンター内視鏡部研修生
1988年3月	横須賀共済病院内科医員
1990年6月	東京共済病院内科医員
1991年7月	カルフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 留学
1994年9月	東京医科歯科大学霞ヶ浦分院助手
2002年11月	東京医科歯科大学呼吸器内科講師
2004年4月	横須賀共済病院内科部長
2009年11月	東京医科歯科大学統合呼吸器病学分野（呼吸器内科）教授
2019年4月	平塚共済病院院長



現行の地域医療構想調整会議では、国が定める算定式に準拠して基準病床数が検討された。2023年の湘南西部医療圏の既存病床数は4,638であり、当初の試算では基準病床数が5,253（615床不足）とされたが、医療需要予測や非稼働病床も踏まえて最終的に4,360（278床過剰）と算定された。

2024年度には病床数適正化支援事業が予算化され、病床削減が支給対象とされた。急性期病院の経営は大変厳しい状況下であり、全国で機能転換や再編が進められている。新たな地域構想においても医療・介護の連携強化が重要であり、広域の連携に資する公的システムの構築が望まれる。

(2) 「新たな地域医療構想と病院現場における現状と取り組み —包括期、慢性期に関して—

医療法人社団三喜会理事長兼横浜新緑総合病院院長

鶴巻温泉病院名誉院長 鈴木 龍太 (すずき りゅうた)

プロフィール

【経歴】

1977 年 3 月 東京医科歯科大学 (現東京科学大学)
医学部卒業
1977 年 4 月 東京医科歯科大学 (現東京科学大学)
脳神経外科研修医入局
1980 年 1 月 米国 National Institutes of Health
(NIH) NINCDS Visiting fellow
1995 年 4 月 昭和大学藤が丘病院脳神経外科
助教授 (准教授)
2009 年 9 月 医療法人社団三喜会鶴巻温泉病院院長
2015 年 6 月 医療法人社団三喜会理事長兼務
2025 年 10 月 医療法人社団三喜会横浜新緑総合病院院長



神奈川県では 2015 年の既存病床 58999 床に対し、2025 年までの地域医療構想での必要病床は 72410 床と 13000 床あまりの不足であり、特に回復期で 15000 床、慢性期で 2000 床不足しているとの発表であった。現実と乖離した国と県のミスリードにより、現場は大きな混乱をきたした。2025 年の結果として神奈川県の既存病床は約 60000 床となり 2015 年と殆ど変わらなかった。そのうち回復期病床は計画には達しなかったが、3500 床程度増加した。

人口当たりの病床数が都道府県で 4 倍程度の差があり、地域医療構想はその平準化が一つの目的であった筈である。人口減少が始まり、交通網も充実していない地域とこれから高齢者が増えるが、人口密度が高く、更に交通網が発達して、医療圏を越えて受療しやすい都市部とは必要病床数の算出は異なる方法を使うべきではないだろうか？

2040 年に向けての地域医療構想は従来の 4 区分を維持するが、回復期を「高齢者等の急性期患者への医療提供機能」を加えた包括期と呼び方を変える。包括期、慢性期は「治し支える医療」を提供する役割として位置づけられている。慢性期では 2018 年に新設された介護医療院が 2024 年 4 月で 53000 床となり、このうち 40000 床あまりが病床からの移行なので病床数から引かれるため、慢性期病床はかなり減ることが確実である。一方慢性期は病床数だけでなく、在宅医療、訪問医療、介護施設での医療等の関わりが重要となってくる。

本発表では 2025 年までの地域医療構想を顧みながら、2040 年に向けての地域医療構想への期待と課題を論じ、現場での取り組みを提案する。

(3) 精神科医療と地域医療構想

港北病院理事長兼院長 山口 哲顕 (やまぐち てつあき)

プロフィール

【経歴】

昭和 57 年 3 月	日本医科大学卒業
昭和 57 年 6 月	日本医科大学精神医学教室
昭和 59 年 6 月	横浜市立大学医学部精神医学教室
平成 15 年 1 月	医療法人正永会港北病院院長
令和 元年 6 月	公益社団法人神奈川県病院協会理事
令和 5 年 5 月	一般社団法人神奈川県精神科病院協会会長



今般精神科医療の新しい地域医療構想への参入が決定したが、その詳細、方向性については現時点ではまだ検討中とのことである。

そのような情勢をふまえ、当日は精神科の地域医療構想参入に至る経緯、精神科医療の変遷、精神科病院の現状並びに現時点で想定されている将来像、課題等について私見を交え報告する予定である。

IV 一般演題 (2 時間)

15:30～17:30

口演発表 16 演題各 8 分 (説明 5 分、質疑応答 3 分)

<会場 2 階キング&クイーン>

ポスター発表 15 演題各 8 分 (説明 5 分、質疑応答 3 分)

<会場 3 階ハート>

※お名前は、発表代表者のみ記載させていただきました。

研究者等のお名前は、ホームページか、「第 44 回神奈川県病院学会／一般演題抄録集」(別冊)をご覧ください。

口演発表

- ① 自宅退院が叶わず施設退院が決定した患者への関わり
～肯定的な受容のための言葉かけ・姿勢について～

金沢文庫病院 看護部
小笠原 夏月 (看護師)

- ② 褥瘡を発生しない・させない！皆で取り組む予防策
～関節可動域訓練とポジショニングによる褥瘡予防～

金沢文庫病院 看護部
石渡 明子 (看護師)

- ③ 医療療養病院における摂食機能療法の取り組みと成果

高台病院
内田 陽子 (看護師)

- ④ 栄養情報連携料算定の取り組み

相模原協同病院 栄養室
西江 あみ (管理栄養士)

- ⑤ 平均寿命日本一 川崎市麻生区を支える麻生総合病院の挑戦
～地域包括医療病棟の導入による医療・経営の質向上～

麻生総合病院 事務部
漆原 義寛 (事務)

- ⑥ RPA を使った働き方改革～医療秘書科の取り組み～

横須賀共済病院 医療秘書科
山田 真也 (事務)

- ⑦ 内科系病院における地域包括医療病棟への関心と展望

クローバーホスピタル 法人事務局経理部
高崎 祐樹 (事務)

- ⑧ 顔の見える連携を活かす-鶴巻温泉病院の高齢者医療への取り組み

鶴巻温泉病院 地域連携室
伊勢 正輝 (事務)

⑨ 社会的課題に向き合う病院の役割

～頻回入院患者の一事例にみる「社会的処方」の実践から～

藤沢湘南台病院 医療福祉相談室
小原 由里 (医療ソーシャルワーカー)

⑩ MSW の役割と基本姿勢を再認識した 1 事例

よこはま港南台地域包括ケア病院 地域医療連携室
千葉 沙織 社会福祉士 (医療ソーシャルワーカー)

⑪ 骨密度検査における私服での検討

金沢文庫病院 放射線科
三枝 礼紀 (診療放射線技師)

⑫ 全入院患者への嚥下評価体制の構築と実践報告
～嚥下センター構想に向けた取り組み～

港南台病院 リハビリテーション課
伊藤 涼花 (言語聴覚士)

⑬ 集団リハビリを中心としたリハビリ介入の取り組みについて

よこはま港南台地域包括ケア病院 リハビリテーション課
齋藤 翼 (理学療法士)

⑭ 入院支援外来における薬剤師の周術期リスクへの介入
～市販薬を含む薬剤管理と将来的な地域連携・情報共有に向けて～

川崎幸病院 薬剤部
臼田 昌弘 (薬剤師)

⑮ 災害時に有効な情報共有を目指して！
～2024 年度神奈川県病院薬剤師会 災害時被災状況報告訓練

厚木市立病院 薬剤部門薬剤科
野村 恭子 (薬剤師)

⑯ 当院における Romidepsin 療法の初回コース時の悪心の発生状況

横須賀共済病院 薬剤科
行谷 真波 (薬剤師)

ポスター発表

① DX 化がもたらす働き方改革～業務負担軽減と残業時間削減への効果～

戸塚共立第 1 病院 総務課
久保田 竜也 (事務)

② 介護老人保健施設へ退院支援をする際の医療・介護間の現状と課題

横浜鶴見リハビリテーション病院 地域医療連携室
松原 麻子 (医療ソーシャルワーカー)

③ これからを見据えた回復期リハビリテーションにおける理学療法評価フィードバック体制の構築

横浜鶴見リハビリテーション病院 リハビリテーション技術科
新井 龍一 (理学療法士)

④ 地域に選ばれる通所リハビリテーションを目指して ～利用者の想いと生活に寄り添って～

老健リハビリセンター クローバーヴィラ リハビリテーション部
坂部 尚子 (理学療法士)

⑤ 当院における腎臓リハビリテーションの取り組み

横須賀共済病院 リハビリテーション科
鳥海 真理子 (理学療法士)

⑥ 学会・論文発表の質的向上を目指す取り組み

大船中央病院 薬剤部
越智 良明 (薬剤師)

⑦ 採用抗菌薬の見直しが促す処方行動の変化と地域医療への波及効果

神奈川リハビリテーション病院 診療技術部薬剤科
岡村 秀行 (薬剤師)

⑧ 地域包括ケア病棟における退院に向けた食支援の検討

湘南ホスピタル 栄養科
三宅 利恵 (管理栄養士)

⑨ 認知症専門病院における家族の困り事の実態とその対応

横浜ほうゆう病院 看護部 地域医療連携室
村山 由子 (老人看護専門看護師)

⑩ 行動制限最小化に向けての取り組み

～拘束指示数、拘束使用者数データの見える化を進めての考察、今後の課題～

横浜相原病院 看護部
加賀 陽一 (看護師)

⑪ 身体拘束の必要性への認識と解除経験に関する調査
：J-PRUQを用いた回復期病棟看護師の分析

横浜鶴見リハビリテーション病院 回復期リハビリテーション病棟
高橋 麻衣子 (看護師)

⑫ 器質性精神障害のある患者のストーマ管理—個別性を考慮した継続支援—

横須賀共済病院 看護管理科
大平 浩泉 (看護師)

⑬ 外科外来における継続看護の取り組み

横須賀共済病院 一般外来
原 美鈴 (看護師)

⑭ 退院促進に向けた多職種協働

横須賀共済病院 総合相談、がん・看護相談支援室
高野 寿子 (看護師)

⑮ 地域とともに取り組む感染対策 —感染管理認定看護師相談窓口を開設して—

神奈川リハビリテーション病院 医療安全推進室、感染制御室
矢野 ゆう子 (看護師)

公益社団法人神奈川県病院協会

〒231-0037 神奈川県横浜市中区富士見町 3 - 1

神奈川県総合医療会館 4 階

TEL 045 (242) 7221 (代表)

FAX 045 (231) 1794

.....